

窓辺

スタンフォード大と

シリコンバレー

いけの
池野 文昭
ふみあき

私が研究員として勤務しているスタンフォード大は1891年当時、桃畑しかなかったサンフランシスコ郊外の田舎町に設立された。ハーバード大に代表される東海岸の伝統ある大学と違い、全くの無名大学であった。そして、多くの学生が卒業後、東海岸に職を求め去って行った。

しかし、あるきっかけにより状況は一変する。1939年、学生2人が教授のアドバイスの下、名もない小さな電気関連の会社を大学近くのガレージで創業し

た。2人の学生の名を取った「ヒューレット・パッカード社」はその後、世界第2位のコンピュータ会社に成長し、シリコンバレーの基礎を築き上げた。

現在、スタンフォード大は、19人のノーベル賞学者が研究に従事しており、大学世界ランキングでも常にトップ3に入る名門大学に成長した。80年前は桃畑のほかに何もなかった田舎町が、学生たちの起業によりシリコンバレーと呼ばれるイノベーションのメッカに発展したのだ。

この成功・発展の裏には、若き挑戦者たちのハングリー精神がある。現在も世界中から集まったハングリーな、そして、世界を変えてやろうという若者たちがイノベーションを起こし、本当に世界を変えている。

我が故郷・静岡県。東部の「ファルマバレー」、中部の「フードヒルズ」、西部の「フォトンバレー」。これらの成功の鍵はシリコンバレー同様、ハングリー精神、そして挑戦する若者だと思っている。

若者たちよハングリーであれ、そして立ち上がれ。

スタンフォード大
主任研究員、医師